

目的 新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、地球規模での感染症対策が喫緊の課題となる中、ポストコロナ時代の国境・県境を越えたグローバル（グローバル/ローカル）な感染症に対峙できる研究活動と人材育成を通じ、我が国の感染症研究基盤の強化・充実に資するため、全国共同利用型の研究組織を設置する。

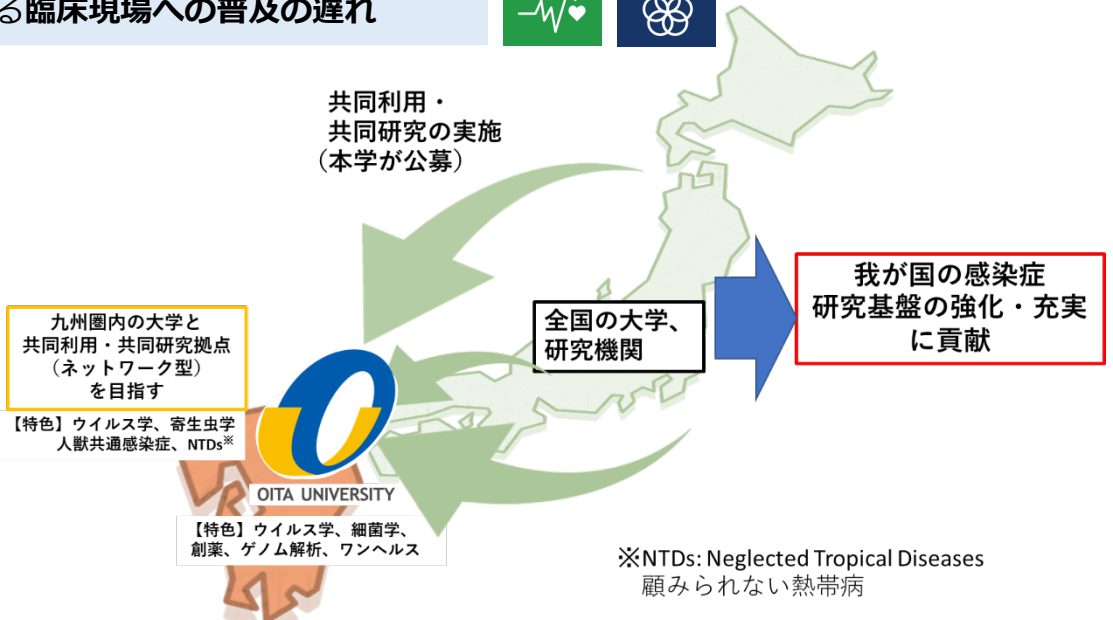
背景

- ・グローバル化によるヒトとモノの移動の増大による国境/県境を越えた感染症の拡大
- ・新興・再興感染症の脅威に対応できる感染症研究人材の不足
- ・ヒト、動物、環境を全体でとらえる感染症学「ワンヘルス」の必要性
- ・病原体遺伝子診断法の技術の複雑化・多項目化による臨床現場への普及の遅れ



大分大学グローバル感染症研究センター

インバウンド/アウトバウンド医学研究部門	国境を越えた感染症の侵入とその防疫に資する視点から、渡航医学・ワクチン学・国際保健医療学などに関わる研究と医療を実践する
ワンヘルス研究部門	感染性微生物のゲノム情報を患者、動物、環境中から素早く探知し、それらの情報を検査データとして臨床現場にフィードバックする
感染症病態研究部門	新興・再興感染症病原体の診断や病態解明のための基礎的研究を遂行、新たなコンセプトによる感染症に対する創薬を行う
ゲノムワイド感染症研究部門	新興・再興感染症のゲノム情報を患者や臨床材料から収集し、そこから遺伝学・人類進化的知見を解析する



グローバル感染症研究センターの特色

- 狂犬病研究やピロリ菌研究では世界最高峰の研究を実施
- 基礎・臨床・社会医学的側面から狂犬病に関する研究が行える唯一の医学系研究施設
- 狂犬病撲滅を目指し、WHOからの受託研究を実施
- 世界各国から収集した延べ1万株以上の世界最大規模のピロリ菌バンクを擁する
- SATREPS事業（感染症分野）に過去5年間で2件の採択

事業概要と今後の展望

- ・他大学と連携し、相互の研究領域を補完することで、九州地区におけるワンヘルス感染症制御のネットワークを構築
- ・自治体等からの要請に基づくPCR検査の実施（実施中）
- ・COVID-19ウイルスゲノム解析
- ・新型コロナウイルスに対する、抗原診断系の地元企業と連携した開発と独自の創薬技術に基づく新規治療薬のスクリーニング